

LIGARE

ひと・まち・モビリティ

リガーレ Feb. 2013

2

【特集】

フランス首都パリを挙げてのEVカーシェアリング

「Autolib'」開始から1年

【連載】

多様なモビリティで観光客を増やせ

スペイン・バルセロナと松山市の挑戦

Special

4 【連載】フランス首都パリをあげてのEVカーシェアリング

「Autolib」開始から1年

20 【連載】多様なモビリティで観光客を増やせ

スペイン・バルセロナと愛媛県松山市の挑戦

Business Report

28 しなやかなユニバーサル社会をつくるITS ITS世界会議 10月東京開催に向け

32 超小型モビリティはなぜ生まれるのか? 認定制度に向けた各企業の取り組み

37 [連載] 上手にクルマとつきあう方法 第5回 ウィラートラベルの工夫

38 [連載] ステイグマを感じさせないデザイン 第2回 株式会社グラディエ 代表取締役 磯村 歩

42 選ばれるバスの将来像は? 西日本エリア貸切バス事業のあり方検討会

50 [連載] 社労士社長に聞いてみよう 第9回労務問題Q&A

52 2013年は「パーツ取り付け」がブームの兆し ネット通販から高まる整備工場さまへの隠れたニーズ

54 まだ見ぬ世界へ。 時間に余裕があれば、船旅をしてみたいかだろうか。

56 ソーシャル・シティの夜明け 街とモビリティがツナガル

62 ニュースファイル

リガーレ 2013年2月号

LIGARE

ひと・まち・モビリティ

リガーレ Feb. 2013

発行 株式会社自動車新聞社

神戸(本社) 兵庫県神戸市中央区御幸通8-1-6

東京オフィス 東京都中央区日本橋室町1-13-11

記事内容・広告掲載に関するお問い合わせ

神戸 TEL:078-570-5763 FAX:050-3737-6662

東京 TEL:03-3274-1288 FAX:050-3737-6662

Autolib' After 1 Year.





フランス首都パリをあげてのカーシェアリング 「Autolib'」開始から1年

2011年12月5日のEVカーシェアリングサービス「Autolib'(オートリブ)」開始1年を迎え、再び注目が集まっている。

「Autolib'(オートリブ) = automobile(自動車) + libre(自由)」は、2007年7月17日にサービスを開始した自転車シェアリング「Vélib'(ヴェリブ)」に次ぐ、パリ市のDelanoë(ドラノエ)市長の新たな交通施策だ。首都圏にあたる、パリ市を含むイル・ド・フランス地域の46自治体で事業組合 Syndicat mixte Autolib'を作り、12年の契約で Le groupe Bolloré(ボロレグループ)に委託された。

ボロレグループは、自社開発のリチウム・メタルポリマー二次電池を搭載し、イタリア最大のカーボディメーカーのPininfarina(ピニンファリナ)と開発した100%EV「Bluecar(ブルーカー)」を使用したOne Way型のカーシェアリングシステムを用い、契約期間内に黒字に持ち込むことを約束している。

新たに自動車業界に参入してきたボロレグループは、どのようなビジネスモデルを考えているのか、採算はとれているのかなど、関心が寄せられている。「LIGARE May 2012」や「別冊 LIGARE オートリブ」では、2012年3月時点の会員数やステーション数を紹介しながらシステムを紹介した。「LIGARE Feb. 2013」では、2011年12月5日開始からの会員数や利用者数の伸びを、次号ではEVメーカーであり、かつ運営会社であるボロレ社に着目し、これらの疑問点について迫る。



【連載】多様なモビリティで
観光客を増やせ
バルセロナと松山の挑戦



バルセロナがあつい Vehicles with GPS routes

自分で自分が行きたい場所を、より多く観光出来る



写真上・写真右/
Green Electric

Moto Barcelona

利用料金は、午前(9～14時)と午後(15～20時)に分かれていて、それぞれ49€。1日借りると79€となる。

Barcelona Turisme
(バルセロナ観光局)

<http://www.barcelonaturisme.com>

“旅”を創造する観光客

スペインのバルセロナの Barcelona Turisme (バルセロナ観光事務局) は、GPS とモビリティを使ったさまざまなコンテンツを用意し、観光客の個々人のニーズに応えるサービスを展開している。

ヨーロッパでは、大変活発に休暇を活用し、国境を越えて旅を楽しむ学生が多い。旅行会社のバックツアーを活用せずに、インターネットを活用し、自分の予算や予定にあわせて、自分の旅を創造するのがヨーロッパの学生風の旅の仕方なのだ。

日本でも大きな登山用の鞆を背負い、駅構内を移動している、ヨーロッパ観光客を見る。彼らは予算内で、日本列島を北から南まで、出来るだけ多くの観光地を回るために、ユースホステルや日本国内の知り合いの家に宿泊する場合も多い。1日だけではなく、1週間など長期滞在する観光客もいる。

そんな風に、活発に“旅行”と言うより“旅”を自分自身で創造しながら、出来るだけ多くの文化や歴史に触れて回ろうとする観光客をターゲットにしているのだと推測される。



松山のモビリティがあつい

斬新なモビリティセンターという発想で足の確保と観光客誘致を目指す



愛媛県松山市

H24年4月1日現在

総人口 514,808人
 男 239,902人
 女 274,906人
 世帯数 225,861世帯
 世帯平均人数 2.28人
 人口密度 1,200人
 松山市の面積
 429.05平方キロメートル

観光名所には、道後温泉、松山城、小説「坂の上の雲」をモチーフとしたミュージアムなど、歴史・文化を活かしたまちづくりを展開している。中枢拠点であるため、周辺部の居住人口が増加した。また、平坦地が多いため、市街地の外延化が進行した。温暖な気候であることも知られている。

松山はモビリティでいっぱい

四国愛媛県の県庁所在地である松山市。夏目漱石や正岡子規のゆかり地で、千と千尋の神隠しの参考にもされたという日本最古の温泉地「道後温泉地域」がある。そこではいろいろなモビリティが観光客を迎えてくれる。鉄道が走っておらず、マイカーに頼った生活を送っている人がここに来れば、「こんなにもたくさんの種類の乗り物があるのか」と新鮮な気持ちになるのではないだろうか。

また、松山市へのアクセス方法も工夫すれば楽しみが一層増える。空路は松山空港、海路は広島港から松山観光港、陸路は本州と四国を結ぶ、しまなみ海道を高速路線バス、マイカーをはじめ、季節の良い時は自転車でも渡ることが出来る。さらに、児島・坂出ルート（瀬戸大橋）は鉄道が走っている。

“十人十色なモビリティモード”で課題解決

日本国内において、「モビリティ」という考え方はまだまだ浸透していない。「モビリティ」の言葉を聞いて、「何ですか?」と問われ、説明することがほとんどといって良いほどだ。このような状況下で、都市活性化に向けて、「モビリティ」の活用を松山市は向き合っている。



超小型モビリティはなぜ生まれるのか？

認定制度に向けた各企業の取り組み

カッコいい生き方応援

WHILL 代表取締役社長 杉江 理 氏

歩道を走る車

これまでの車いすのイメージを一新するデザインの電動パーソナルモビリティを開発するWHILL（東京都品川区）。大手電機メーカーや自動車メーカーの技術者らが2012年5月に設立した。社名は「WILL」と「WHEEL」を掛け合わせた造語。新たなモビリティの提案を通じ、「多くの人のカッコいい生き方を応援したい」という。

同社の電動パーソナルモビリティは、高齢者の「100m先のコンビニへ行くのもあきらめている」という声をきっかけに、足が不自由な人らにとって魅力的な移動手段の提案を目指す。

車いす利用者が外出に消極的になる要因として、まず「遠くに行くには坂があるとしんどい

というような機能的側面と、「車いすに乗っているのは何となくカッコ悪い」という心理的側面があると指摘する。

基本的に移動ツールは、人のステータスを上げるもの。しかし、車いすとシニアカーはステータスを下げる乗り物という調査結果がある。「どうにかして車いすのステータスを上げることができないかを考えた」（杉江氏）。

2011年のモーターショーで、既存の車いすに着脱させて電動化するものを発表。最高速度は20km/hに設定した。その際、反響が大きく、様々な国のディストリビューターやジャーナリストから問い合わせがあったという。

下/WHILL発表の電動パーソナルモビリティ“WHILL Type-A”のイメージ

右ページ右/WHILL Type-Aの使い方のイメージ

右ページ左/WHILLのITデバイス化のイメージ

右ページ下/WHILL、シニアカー、電動車いすの性能比較



スティグマを感じさせない デザイン

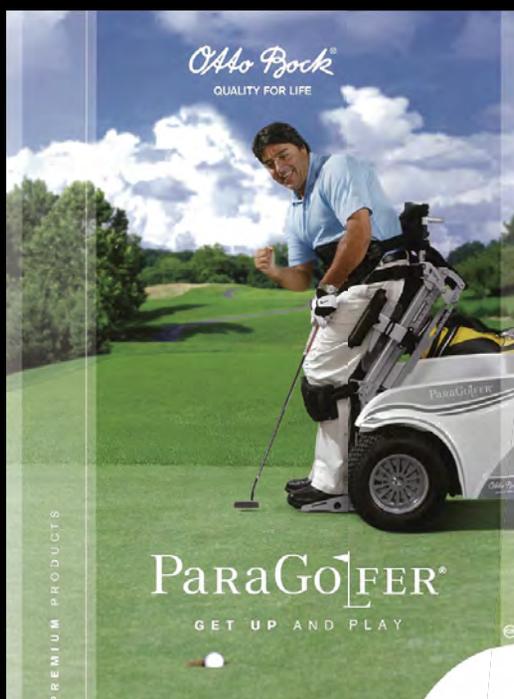
連載シリーズ 第2回

福祉用品や介護用品の多くはADL (Activities of Daily Living = 日常生活動作) と呼ばれる食事、排泄、整容、移動、入浴等の基本的な行動を支えるものだ。ただ私たちの生活は、こうした日常的なものに留まらず、スポーツや旅行など、非日常的なものも楽しんでこそ豊かなものとなりうる。QOL (Quality of Life = 生活の質) を向上させるには、こうした要素も入れこむ必要がある。

欧州における福祉用具や介護用具は、ADL 向上にむけたものに加えて、QOL 向上にむけた非日常生活におけるものも非常に多い。そうした用具たちは、通常の福祉用具や介護用具を使う時に感じる“スティグマ (不名誉な烙印)” がないばかりか、使用者を大きくポジティブな気持ちにさせてくれる。

多種多様なアクティビティをかなえる

ottobock 社の「Paragolfer」はゴルフ向けの電動車椅子だ。座る姿勢と立ち姿勢を電動で切り替えられ、バンカーや芝生でも安定した走行が出来るような製品仕様になっている。同社製品紹介のサイトを見ると、同製品を使用したアーチェリー、ライフル、フィッシングなどのシーンも掲載されているが、改めて“立ち姿勢”になることによるアクティビティの拡がりを私たちに気づかせてくれる。こうした自由闊達にアクティビティを楽しむ姿は、使用者だけでなく見るものさえ、とてもポジティブな気持ちにさせてくれる。





ひちまち

オーバーアクション



AZAPA

街とツナガルモビリティ

ソーシャル・シティの夜明け 街とモビリティがツナガル

2013年4月26日、世界で初めて「ひちまち・モビリティ」がつながる「ソーシャル・シティ」が大阪で誕生する。「グランフロント大阪」だ。ここでは、その鍵を握る電通国際情報サービスの「+fooop!」とAZAPAの「AZP-LSEV」を紹介する。



「第1回クルマのITソリューション展」が東京ビッグサイトで2013年1月16日から3日間開催され、延べ2万人が訪れた。車載情報通信機器・モジュール、ITS関連機器、ヒューマンマシンインターフェース、テレマティクスサービス等、クルマ向けのITソリューションやサービス専門の展示会だ。

300余りのブースの中で、人だかりが絶えず、ひととき盛り上がりを見せたブースがあった。AZAPAとイノラボ（電通国際情報サービス オープンイノベーション研究所）だ。

2013年4月、大阪で「グランフロント大阪」がオープンする。人と街の新しい関わり方や交流を提案する、世界初のソーシャル・シティだ。ブースではソーシャル・シティの実現に欠かせないITプラットフォーム「+fooop!（フープ）」と、「行動センシング」を担うAZAPAのモビリティと通信技術が展示され、次世代情報社会とひと・まち・モビリティの融合を提案していた。



ソーシャルシティプラットフォーム

Subscription

ご購入のお申し込み

本用紙送付先 FAX : 050-3737-6662
mail : info@j-np.com

1. お申し込みの購読期間に○をつけて下さい。

お申し込みプラン名	料金 (月額)	3か月契約	6か月契約	12か月契約
月刊誌『LIGARE』 (毎月10日発行の自動車ビジネス誌)	¥1,890 (税込)	¥5,670 (税込) (月額1,890円)	¥11,340 (税込) (月額1,890円)	2ヶ月分無料 ¥18,900 (税込) (月額1,575円)

※ご契約は契約期間ごとの自動更新となります。解約をされる場合は1カ月前まで、ご連絡をお願いいたします。

※1人様ご紹介ごとに、ご紹介者様と新規購読者様のご契約を“1か月延長”させていただきます。

上記プランのサービス内容

◇自動車新聞社が発行する自動車ビジネス誌『LIGARE』を毎月お届け。(発行日、発送日は暦により変更の可能性があります)
注目されているモビリティサービスなどの情報をわかりやすく紹介し、読者の皆様のビジネスに役立ちます。

2. お支払い方法は「銀行振込」のみとなります。

口座名：株式会社 自動車新聞社
三井住友銀行 神戸営業部 (普) 8376598

※恐れ入りますが、振込手数料はご負担願います。

3. 下記項目をご記入下さい。

※本申込書はご契約に関わります。全て正確にご記入の上、ご返信ください。(記入日) 年 月 日

フリガナ	フリガナ	購読開始月号
ご契約者名	ご紹介者名	年 月号から
フリガナ	フリガナ	フリガナ
お勤め先	部署	役職

フリガナ
ご住所 〒 -

E-mail TEL () FAX ()

フリガナ
ご送付先 〒 -

(ご住所と異なる場合)

お支払い先 三井住友銀行 神戸営業部 (普) 8376598 ※入金確認後に発送いたします。振込手数料はご負担ください。

本用紙送付先 FAX : 050-3737-6662
mail : info@j-np.com

<お問い合わせ> TEL : 03-3274-1288 (株)自動車新聞社